

勝林寺報	
十九日の生まれなのですが、その一週間後に、お湯をかけて三分钟待つだけ”でおいしく食べられるあの有名なインスタントラーメンが誕生したのだそうです。戦後はすでに終わり、高度経済成長の発端に自分は生まれました。	
文明がめざす目的の一つは“スピード”です。この六十年間でいろいろものの時間が短縮されました。移動の時間、計算の時間、収穫の時間、あらゆるもののが驚くほど短縮され、今後もこの傾向はますます加速していきそうです。	
ところで人はどうしてスピードを求めたのでしょうか？もともとは“忙しさ”に束縛され、楽しくなり、和んだり、ゆっくりと考えたりする“暇”が取れないことを嘆き、無駄な時間を少しでもなくし、自分の時間を増やすために努力してきたのではないでしょうか。しかし、今の日本社会はますますセワシナクなっているようです。逆にこの“忙しさ”が社会人として劣等感になることなり。“暇”は社会人として劣等感になつてているようにさえ感じます。	
この時間の合理化、短縮は人の人生の見送り方にも反映されています。つい三十年前までは人を一人見送るのに四十九日の時間が費やされていました。今では四十九時間もあれば我が親の最期の処理を終わらせることが出来ます。ここで無駄な時間として合理的に短縮された時間は、残された家族の豊かな時間に補充されていくのでしょうか。	

五劫思惟之授受

今年住職は還暦の年です。昭和三十三年八月十九日の生まれなのですが、その一週間後に、お湯をかけて三分钟待つだけ”でおいしく食べられるあの有名なインスタントラーメンが誕生しましたのだそうです。戦後はすでに終わり、高度経済成長の発端に自分は生まれました。

文明がめざす目的の一つは“スピード”です。

この六十年間でいろいろものの時間が短縮されました。移動の時間、計算の時間、収穫の時間、あらゆるもののが驚くほど短縮され、今後もこの傾向はますます加速していきそうです。

ところで人はどうしてスピードを求めたので

しょう？もともとは“忙しさ”に束縛され、楽しくなり、和んだり、ゆっくりと考えたりする“暇”が取れないことを嘆き、無駄な時間を少しでもなくし、自分の時間を増やすために努力してきたのではないでしょうか。しかし、今の日本社会はますますセワシナクなっているよう

です。逆にこの“忙しさ”が社会人として充実のしるしとなり。“暇”は社会人として劣等感になつてているようにさえ感じます。

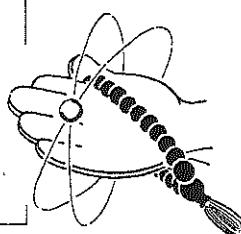
この時間の合理化、短縮は人の人生の見送り

方にも反映されています。つい三十年前までは人を一人見送るのに四十九日の時間が費やされていました。今では四十九時間もあれば我が親の最期の処理を終わらせることが出来ます。ここで無駄な時間として合理的に短縮された時間は、残された家族の豊かな時間に補充されていくのでしょうか。

阿弥陀様は私たちを救いたいと思い、その手立てとして称名念佛の行をさし向けるのに“五劫”というとてつもない時間を費やし、考え抜かれたそうです。やはり眞実のもの、本物を作り上げるには即席ではなく十分な時間を惜しまず費やすことが必要です。親を見送る時間を割愛してできた時間は、いま私たちがたまたま産まれて生かされている命が、眞実に出会うための時間として費やされているでしょうか。

インスタントラーメンを待つ三分も、目ぐるめく三年も、青春の三〇年も、還暦の六〇年も五劫思惟の時間からすれば、瞬きのような一瞬の時間です。このますます忙しい時代であればこそ、時間を惜しまず仏壇に手を合わせ、お寺に繰り返しお参りし、みんな一緒にお念佛する中で、阿弥陀様が五劫の時間をかけて考え方呼びかけられた願いの声を聞きとどけ、即席ではない本当のご信心をいただきたいものだと思います。

(文責 住職)

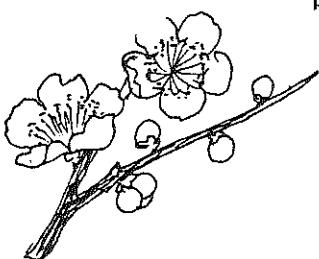


葬儀		
出合	関川美代子様	九十一歳
二月一日	矢根 岩出酒一郎様	八十八歳
二月三日	豊岡 坪木博美様	七十二歳
二月九日	矢根 永井礼子様	八十九歳
二月一二日	川原 龜井幸枝様	九十歳

ご案内

春の彼岸会

仏教婦人会総会



日時	内容	法話
平成三〇年三月二二日（春分の日）午後二時より	お勧め「正信偈」	勝林寺住職
平成三〇年三月二二日午前九時三〇分より	報告総会	
（法話）アトラクション	物故者追悼法要	
（作品展）懇親会	彼岸会・合同役員会	

一年に一度、仏婦会員が集う機会です。目も心もお腹も頭も十分満足していただける時間になると思います。“ご近所誘い合わせて、ぜひお参りください。お待ちしています。

去る二月一一日の仏婦評議員会で、役員改選が承認されましたので、“ご報告いたします。

会長 中川政野さん（鍛冶屋）
副会長 立脇弥生さん（丸中）
坪木文子さん（太田）
宮嶋良子さん（小谷）
斎藤洋子さん（上小田）
中嶋多見子さん（坪口）
岩上加代子さん（上小田）

（敬称略）

お詫び

一月号の新年の挨拶の中でも、仏社の役員名を間違えて掲載しておりました。お詫びして、訂正いたします。

誤会計 正副会長 坂本智
会計 会計 坂本智
事務局 会計 関川一男
（敬称略）

二日（金）	山田美佐子宅	三三回忌
三日（土）	角折幸江宅	忌明法要
四日（日）	関川一男宅	忌明法要
五回忌	龍谷大学真宗学 同窓会	
七日（水）	兼井元三郎宅	一周忌
一〇日（土）	成田清野宅	一七・一五回忌
一一日（日）	岩出みつゑ宅	忌明法要
一七日（土）	龜井博文宅	忌明法要
一八日（日）	足立幸夫宅	一七・一五回忌
二一日（水）	勝林寺婦人会 総会	
二五日（日）	数森美咲子宅	七回忌
二六日（月）	坪木 昌宅	忌明法要
二八日（水）	永井正子宅	一周忌
三一日（土）	出石組 組内会	

ひとつのことだわり

今年は、太平洋戦争の終結六〇周年になりま
す。その戦前、戦後の時代を生きてきた私にと
つては、その戦争をめぐるさまざまなもの思い出が
いっぱいあります。何もかも、まったく異常で
あつたあの時代には、苦しいこと、悲しいこと
が、あまりにも多くありました。

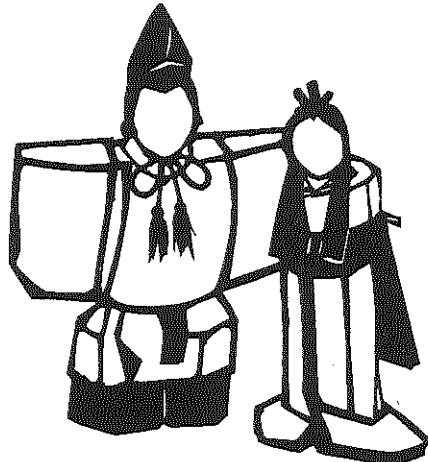
全国の大学生を北海道の旭川に集めて、本土決戦のための國土防衛軍を養成するということでした。しかし敗戦となつて、故郷に帰つてきました。私の家の近くに小学校の同級生の子がいましたのですが、その母親に出会いました。その母親が、私を見るなり、こういいました。「あんたは兵隊から帰つて来れてよかつたな、うちの息子は死んだよ。」私は息をのんで、返す言葉もありませんでした。子供の頃、いつも一緒に遊んだ親しい友です。海軍にて敗戦まぎわに死んだということです。この母親の言葉は、私の胸に深く突き刺さりました。私はその時、とつさに生きて帰つてきたことの罪の深さを感じ、まことにすまないことだと思いました。このこととは敗戦のショック以上に、それからの私の人生に、ひとつのことだわりとして、残りつづけてきました。

私の従兄弟や知人たちの多くが、あの原爆でたくさん死にました。私は中学時代に広島にいましたので、その秋に一人で広島を訪ねました。そこにはいかに悲惨な光景が広がつていたのか、今も胸が痛む思いです。

しかし、昨今の政治状況の動きは、「日本国憲法」を改悪して、ことにその第九条の戦争放棄の条項を改変し、再び戦争できるようにしようとしておりますが、とんでもないことです。」

れを簡単に変えようという人たちは、かつての戦争の苦しみや悲しみが、まったくわかつていないからでしょう。あるいはまた、自分は戦争に行かないで他人を戦争に行かせようと、考えているからでしょう。もつてのほかです。戦争というものは、どんな理由があつても、決してしてはなりません。

私は、この「憲法」の第九条は、私たちの多くの仲間が、その生命と引き換えに残してくれたものだと思います。アメリカが押し付けたとか、いろいろ言いますけれども、私たちにとつては、やっぱりあの悲惨な戦争の代償として、日本の人々が、生命をかけて創つたものだと思います。だから、そういう意味で、この「憲法」、ことにその第九条は、なんとしても護らねばならないと考えます。 (2005・8)



(信楽峠磨遺稿法語集より引用)

法語カレンダー二月（「月々の」）とば」より抜粋)
本願をあわせし
迷ひハシムなれど
聞とのなり
この文は阿弥陀如来様の根本の誓願の救いを
疑いなく、一心なく聞く、「聞」の大切さを示さ
れた一文です。
私たち凡夫の現実は、臨終の瞬間まで貪欲・
瞋恚・愚痴の三毒の煩惱にまみれた状態です。
もし無明煩惱の病原を直さなければ、迷いの世
界にとどまることになります。したがって、自
力のさかしい知恵しか持ちえない私たちには、
無明の毒を滅するはたらきをもつ薬が必要とな
ります。
その救いの法薬は、阿弥陀様が、苦惱の衆生

前住職が、今まで続けてきたいいろいろな活動が少しづつ出来なくなつてくる中で、形を変えながらも、最後まで携わっていた法務が「寺報づくり」でした。「寺報」は、自分と「門徒の皆さんをつなぐ、いうなれば「命綱」」のようなものでした。だから、何もできなくなつても、月末が近づくと必ず「寺報はできたか?」と尋ねていました。(時にはそれが、私には煩わしいと感じる時も正直ありましたけど)前住は、何十年もの間、すべての記事を書くこと、紙面の校正、印刷などすべて一人でしてきました。最初に、私が手伝ったのは、紙面の校正です。誤字を訂正し、書いた記事を切つて張り合わせ、カットなどを挿入して原本を完成する作業です。前住はあまり目がよくなか

法語カレンダー二月（「月々の」）とばより抜粋
本願をおわへ
跋のいふのなれ
聞ことのなり

どすん

えられ、諸仏がたの讚嘆称名される音声を通じて、十方世界に届けられていたのです。

では、第一八願に誓われた真に救うのお心は、どのようにして衆生のものとなるのでしょうか。それは、衆生においては、与えられた薬の飲み方と言えます。親鸞聖人は、諸仏に届けられた名号は「聞く」というかたちで服用せよと言われます。阿弥陀様が本願を起された理由（生起）と、その本願の因果（本末）を疑心なく聞くということです。

このように、本願に誓われた名号を念佛して助けてもらうのではなく、助かつてくれと押されている阿弥陀様の御名を「聞名」し信心を獲るのが、本願の救いの要であります。

とは、きっと寂しかったでしょうねが、皆さんに届ける寺報がよいものになることを心から喜んでいました。私は、褒められてうれしかったからというのではなく、前住のその喜びようから「あー、本当は手伝ってほしいと思つてたんだ」と気づきました。それ以来、寺報は、前住と私の共同作業となり、そして、次第にリードするのが前住から私へと移つていきました。

今、前住がいなくなり、「寺報できたか」の声もかからず、煩わしさから解放されました。しかし、すっかり気が緩んで、年初めから、役員名を間違えたり、葬儀の記載を抜かしたり、ミス続きです（涙）おじいちゃん、やつぱりしつかり見とつてもらわんとあかんわ。（文責 坊守）

最 て ろ

住職が、今まで続けてきたいいろいろな活動が少しづつ出来なくなつくる中で、形を変えながらも、今まで携わっていた法務が「寺